

Go To OPJ 2020

OPJ 2020 プログラム委員長 水谷 康弘
(大阪大学)

光の尖端都市・浜松で開催する予定でした OPJ 2020 は、コロナ禍により期せずしてオンライン開催となりました。ほとんどゼロの準備状態からの再スタートとなりましたが、新たな OPJ をお届けしようと担当委員のご尽力により魅力的な講演会をプロデュースいただきました。

① 多彩な講演方式

「ライブ」「オンデマンド」「ハイブリッド」の3通りの講演形式があります。「ライブ形式」は、従来の口頭発表のようなダイナミックな講演形式です。シンポジウムや招待講演で採用された「ハイブリッド形式」は、「ライブ」講演を講演者の了解を得て録画し、学会開催期間中にはいつでも聴講できるようにしています。動画コンテンツが掲載可能な「オンデマンド形式」も、開催期間中、24時間いつでもアクセス可能とするだけでなく、講演会終了後もしばらくの間聴講可能としました。また、Slack によるコミュニケーションツールを全講演者に用意したことで、従来の講演会を超える新たな交流の場が生まれることでしょう。

② シンポジウム

11/14 午前には、OSJ-OSA-OSK Joint Symposia が開催されます。また、日本分光学会との共同企画「バイオイメージングのためのラマン分光」では、初学者の方にもわかりやすくラマン分光法の基礎から応用までが解説されます。

11/14 午後には、実世界には必ず存在する「揺らぎ」に焦点を当てたシンポジウムが開催されます。「揺らぎ」の向こう側には何があるのか？ 異分野融合による新しい展開が感じられるシンポジウムです。

11/15 午前には、3件のシンポジウムが予定されています。「光波シンセシスとナノオプティクス」では、時間や空間領域で光波を合成することで生まれた新たな分野に関してご講演いただき、新しい概念での光の性質やナノスケールでの物質の挙動について解説していただきます。「イメージングの個別と総合」では、すべてのイメージン

グ手法を統一して記述する試みを行います。非常にチャレンジングな内容ですが、新たな概念の誕生が期待されます。「シングルピクセルイメージングの応用事例とその光学特性」では、近年、急速に論文数が増えているシングルピクセルイメージングに関して、基本的な特徴や理論を解説いただくとともに応用事例もご紹介いただきます。

11/16 午前には、日本光学会の2020年度年間テーマであるSDGsに基づいたシンポジウム「未来社会 (Society 5.0) を支える生体ひかり計測技術」が開催されます。新分野である「光診断学」による健康維持可能な未来社会についてご講演いただきます。「AI Optics 研究グループ企画シンポジウム」では、AIを取り入れた研究事例について招待講演と一般講演をいただき、「光学+AI」の研究領域の広がりがわかります。

11/16 午後には、光学論文賞・光学奨励賞の受賞記念講演とコニカミノルタ光みらい若手奨励金採択者の講演があります。また、レーザー学会とのジョイントシンポジウム「光無線給電技術と応用の研究開発最新動向」が開催され、これから立ち上がる光技術の息吹を感じることがができます。さらに、「バイオ応用に向けたコンピューテーショナルイメージング」では、光学技術とコンピューテーショナル技術を高度に融合させたバイオイメージング技術の最新の研究事例と今後の展開をご講演いただきます。「第23回光設計賞」の受賞記念講演も開催されます。

③ プレナリーセッション

浜松ホトニクス株式会社社長にライブ基調講演をいただくとともに、米国光学会 (OSA)、国際光工学会 (SPIE)、欧州光学会 (EOS) の海外主要学会の各会長のビデオ講演だけでなく質疑応答をライブで配信する予定です。

一般講演も、昨年を上回る件数が申し込まれました。各種企画や仕掛けが満載の OPJ 2020 に行きましょう！